

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 3月 29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200221		
法人名	ウェルフェア株式会社		
事業所名	みのりグループホーム川内		
所在地	〒731-0102 広島市安佐南区川内1丁目2番5号 (電話) 082-830-0005		
自己評価作成日	令和2年2月22日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200221-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年3月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・食事作りを事業所内で行っている。食事作りを行うことで、生活の香りや音が出る。また入居者の方にも手伝ってもらうことで、職員との関係性や役割を持つことができ、自立支援へ向けた取り組みを行っている。食事作りを現場単位で行うことで、その日のメニューの変更や、時には弁当にしてみたりと、柔軟な対応が可能。認知症対応に関しては、すぐに薬等に頼るのではなく、脱水や便秘等介護的側面を中心に捉えていく。また生活歴を背景に個別に応じた外出やその日の天候をみての外出に取り組んでいる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>町内会に加入し地域の祭りに入居者が出掛け、事業所の餅つきに近隣住民の参加や、年3回地域の公民館で施設長が講座を行うなど、日常的に地域交流を行っている。入居者の意向や生活歴を紐解きながら、麻雀、編み物、食事の支度、野菜作り、花の栽培、個別での外出等個々に応じた取り組みを行っている。職員は内部、外部の研修参加に加え、年1回、事業所ごとで参加する会社全体をあげて開催される「介護技術コンテスト」に参加し、「片麻痺想定の入居者の介護」など事例設問に、事前に職員が意見を出し合いながら全員が一丸となり発表まで取り組むことで、事業所の一体感が生まれ、職員のスキルアップ、サービスの質の向上に繋がっている。食事は3食手作りで、ユニット毎で当日のメニューも違い、入居者の意向も取り入れ提供している。日によっては出前をとったり弁当にするなど柔軟に対応している。</p>

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	入居者の方を見る側、見られる側のような関係性ではなく、良い意味で対等であるように、入職時から伝えていっている。すぐに排泄等の介助をするのではなく、人としての羞恥心を大切にすよう、またプライバシーを大事にするよう、共有に努めている。	施設の理念については、朝礼時唱和することなどで職員一人ひとりが周知し、それに基づき入居者の関わりやケアを行っている。また、理念を念頭に置き、ユニット毎に毎月目標を策定し取り組んでおり、定期的な会議で職員が振り返りを行い、次の目標設定、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	ボランティアの方の参加や行事の際に、飛び入りでの参加、町内会の清掃等の交流がある。	事業所の餅つきに近所の方が飛び入りで参加することや、行事にボランティアで地域の方が来られ踊りや音楽など披露されることもある。また、近所の方に野菜を頂くことや町内会の清掃の参加もある。地域の祭りや近隣の高齢者施設の行事に参加するなど、日常的に地域との交流、つながりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で報告や、認知症アドバイザーの活動等を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、2ヶ月分の実践報告を行っている。その他にも、参加される方々からも、介護以外での相談を受けている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており、地域包括支援センター、自治会長、民生委員等の参加があり、事業所の近況報告、取組み等を伝えている。アットホームな雰囲気で行われ、会議で出た情報で地域の行事に参加した例など数多くあり、運営に活かしている。	運営推進会議に家族が参加しやすい日時の設定や関心を引くことができる内容等を工夫し、今以上に多方面での意見が聞け、サービス向上、運営に活かせることを期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政的な事は、市へ連絡し確認するようにしている。運営推進会議を活用または、包括を介しての集まりの際に、情報共有を行っている。	介護保険課には分からない事、疑問点を連絡して聞くことや、運営推進会議報告書を持参し連携を図っている。生活保護課のケースワーカーとは利用者の事で連絡を取り合っており、地域包括支援センターの職員とは運営推進会議や認知症サポーター養成講座の協力などもあり、密に連携をとる体制が築かれている。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法的な意味での身体拘束も含め、スリーロックについても、日々説明を行いながら取り組んでいる。施錠に関しては、外へ出られる入居者がおられ、長時間歩かれたり、疲れで戻ることが困難になったりするので、職員の人数が確保できない日や、時間によって施錠している。	日々の業務での指導や定期的な研修を行うことで、「身体拘束をしないケア」について一人ひとりの職員が理解、周知できており、実際に身体拘束を行った事例もない。入居者の個々の状態を把握し、ケア、対応を工夫しながら安全、安心して過ごせるよう日々努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で虐待研修を行いながら、個別に取り組み対応を決めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	自主勉強を行いながら、自己研鑽に努めている。またかけはしや、成年後見人も来られるので、その都度話している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	新規入居の契約時に、それぞれ説明と同意をもらっている。また施設見学時にも、簡単な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に飲み物を持っていき、日々の様子を伝えている。各ケアプラン担当者を中心に、日々の必要なものや、遠方の方には電話で連絡している。	家族とは面会などを通じてコミュニケーションを多くとり、信頼関係を構築し、自然な形で意見、要望を表せるようにしている。家族の意見により、居室の掃除を強化するなどの事例があり、迅速に施設で対応し、サービス向上、運営に活かしている。入居者には日々の生活の中で意見を汲み取り、その都度対応している。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回フロア会議を行っている。業務やケアの徹底を図っている。また緊急を要する事柄に対しては、ケアを含めカンファレンスを開催している。	月1回のユニット毎のフロア会議や日頃の業務の中でも職員からの意見を聞く機会を設けており、必要に応じて個人面談も行っている。職員の意見、提案により、正月の過ごし方を決めたり、行事予定を立案するなど様々な事例がある。職員の声に耳を傾け、運営に反映させる体制に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	外部からの高評価は、すぐに現場のみんなに伝えるようにしている。2か月に1回の本社会議で、賃金の事や事業所での取組等、行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修を受ける際に費用を捻出してくれるが、全額ではなく負担がでている。法人内では年に1回技術コンテストを開催しており、技術の共有や向上を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着型サービスの情報交換などに、参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ベテラン女性職員が多いため、親身かつ人間的な関り方が多く、不安を取り除けるよう、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族と年齢の近い女性職員も多いため、同じ目線での不安や、それに対する感情の共有を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアプラン担当者を決め、個別に密な情報を集約していく。まずは一緒に過ごすことを重点的に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入職前、入職後から関係性について説明を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	見学や新規入居の際に、改めて家族に、本人との関係性や心の距離について説明を行い、特に新規の際には、なるべくの面会をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人の面会を引き続きお願いしている。また以前に良く行かれていた場所等、ケアプランにも反映させている。	家族、本人から情報を得た上で対応しており、個別対応で馴染みの場所に出掛けることがあり、職員と家族の協力により他県に外出したこともある。家族による自宅等への外出や知人の面会もあり、馴染みの人や場との関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員がなるべくリビングには1人いる状態を確保しておく。そこから職員が間に入り対応している。部屋が好きな方に関しては、職員から居室へ赴いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了後も、家族から手紙や年賀状等が届いている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴をベースにケアプランに反映させている。家が気になる方に関しては、職員同伴のもと一緒に家に行っている。	利用者の暮らし方や生活習慣を把握した上で事業所での生活における意向や思いを探っている。畑での野菜作り、花の栽培、食事準備、散歩など本人の生活歴を活かした取り組みや趣味に応じて編み物や麻雀を行うなど個々の思いを尊重し、対応している。朝礼やフロア会議などで職員間で情報共有、統一したケアを実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	嗜好品や以前暮らしていた場所等、家族様とも協力しながら行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝礼で夜間帯や日中の申し送りを行っている。毎日の状態把握や、ケアの統一に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>半年に一回のケアプランの更新と3か月に一回のモニタリングを作成している。</p>	<p>本人、家族の意向を踏まえた上、「私の気持ちシート」を含むアセスメントシートを活用し、担当職員、介護計画作成者が協同して介護計画を作成する。利用者の強みや取り組めることを織り込み、現状に即した計画になっている。サービス内容についてのモニタリングを3ヶ月に1回行い、次回の介護計画作成に活かしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の介護記録とは別に、ノートを用意し、個別に応じた記録を集約し、実践へ繋げている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人の意向を踏まえ、家族様からも納得してもらえるよう、その都度コミュニケーションを図っている。日々のケアから看取りの経過まで、常にニーズに対応できるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>運営推進会議を介して、入居者の暮らしの情報を地域の方へ挙げている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎週木曜日に、1階2階交互に往診にいられている。訪問看護とも連携をとりながら、事前に情報共有を行い、また必要に応じて主治医以外の病院受診も行っている。</p>	<p>家族に了解を得た上でかかりつけ医を決めており、内科については往診のある事業所の協力医に変更する場合は殆どである。本人、家族の希望により眼科、皮膚科など入居前の医療機関に継続して受診する入居者もいる。歯科は往診があり、適切な医療が受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と連携し、細かな情報でも報告するよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会を随時行いながら、直接本人の情報を持つようになっている。病院によっては現状をFAXして頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や看取り時は、カンファレンスを行い、その都度対応の徹底を図っている。また主治医からも、直接家族へ説明を行っている。	入居時に重度化、終末期の事業所で行える対応、方針について説明し、本人、家族の意向を伺っている。看取りを希望される場合は事業所で対応しており、本人、家族の意向をもとに医師、看護師、職員で連携し、カンファレンス等で方針を共有し統一したケアで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	季節や時期に応じて、インフルエンザや、掃除機を使用しての吸引の練習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防の指導を定期的に行ってもらっている。	専門の業者に依頼し、年2回消防訓練を行い、避難誘導、消火訓練等の内容で実施している。職員に連絡網を配布し、水、食料、ガスコンロなどの備蓄も備え、火災だけでなく、水害を想定しての対策を整えている。職員が災害についての高い意識を持ち、避難方法等について周知している。	運営推進会議を通じて地域の住民の方々に事業所の消防訓練の参加をきっかけに、災害時に事業所と地域との協力体制がとれることを期待します。

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者の名前を大きな声で呼ばない、プライバシーに関することは、特に大きな声で使わない等伝えていっている。	入職の際、職員に対し接遇、プライバシー等について説明しており、声かけ、態度など丁寧に配慮し、入居者の支援を行っている。職員の対応で気になることがあれば、その都度指導したり、個別の面談で話をすることもある。職員一人ひとりが入居者の人格を尊重し支援できるよう体制を整えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人に選択肢が持てる声掛けを推奨している。ただし入浴等拒否が続くような方であれば、声掛けの工夫をその都度行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な1日の流れはあるが、起床時から、個別に応じた対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	特に介助を要する方に関しては、起床時の整髪や髭剃り等、丁寧に指導している。また食後の衣類の汚れに関しても、すぐに着替えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	自立支援の視点からも、野菜を切ったり、食器を洗ってもらったりと、出来ることはしてもらっている。	食事は3食とも手作りで、入居者の意向、能力に応じ、食事作りを行っている。入居者と一緒に食材の買物に出かけたり、事業所の畑で野菜を収穫するなど実施している。ホットケーキ、チョコレートフォンデュ等の菓子作りを行うことや外食をすることもあり、食が楽しくなる取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	水分量が少ない方に関しては，個別に水分量を記録し統計する。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	口腔ケアとは別に，必要な方に応じて，訪問歯科を取り組んでいる。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排泄に対する声掛けから，職員には指導を行っている。また排便に関しては，個別に薬の調整や，トイレに座る等対応している。	排泄の記録をもとに利用者の排泄パターンを把握し，個別支援を行っている。日中はトイレでの排泄を基本とし，夜間ポータブルトイレを使用する利用者もいる。排泄時，「ズボンの上げ下ろし」「拭き取り」など，本人の残存能力を活かせる取り組みを実践し，自立に向けた支援に努めている。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	便秘になりやすい方に関しては，水分摂取量を記録に残し把握している。嗜好品にも気を配りながら，本人が無理のないよう飲んでもらっている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	入浴が好きな方に関しては，日に関係なく入ってもらっている。拒否が多くある方に関しては，時間や相性等を気にしながら対応させて頂いている。	入浴は入居者の希望に応じ，週2～3回行っている。時間帯も午前、午後から19時頃ということもあり，柔軟に対応している。また，個々の好みに応じて入浴時間を決め，ゆっくり浸かれるよう配慮している。入浴の拒否がある場合は時間をずらしたり，相性の良い職員が対応するなどして，無理のない支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>起床時間はその方に応じて対応させて頂いている。日中は居室におられる方も、日の光を浴びてもらえるようにしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>食前薬のある入居者の方の服薬については、なぜそれが必要なのかを事前に申し送りを行いながら、その後の経過でも説明を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>食器洗い、掃除等その方に応じて役割を持ってもらっている。外へ散歩に行く等、入居者のその日の気分になるべくあわせるよう対応している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>職員のその日の人数配置や時間帯にもよるが、対応できる日はカギを開け、自由に出られるようにしている。買い物や近場の散歩に関しても同様。</p>	<p>入居者の意向に応じ、散歩や近隣のスーパー、公園に出掛けたり、花見や庭園への外出などを定期的に行っている。また、釣り堀や墓参りなど個別での支援も行っており、生活に変化を持ち、楽しみが持てるように努めている。家族による自宅への外出もあり日常的な外出の支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居前に家族とも話をし、個別にお金は管理させて頂いている。それとは別にお金を持たれている方もおられ、近場の店へ一緒に買い物に行かれ、自分で支払われている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>入居者本人から希望があるときは、家族へ電話をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>生活音を大切にしながらも、食器のぶつかる音や、水道をシャワーを使用せず、無駄に音が出ないように配慮している。天気の良い日は、日光浴を楽しんで頂いている。</p>	<p>入居者が作った折り鶴等の作品を飾ったり、「クリスマス」、「正月」など季節に応じて飾り付けをしている。音楽を流したり、ソファも配置され、くつろげる空間になっている。テーブル、椅子は入居者に合わせた高さになっている。掃除も行き届いており、快適に過ごせるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファを常設しておりくつろがれている。席も簡単に変更せず、リロケーションダメージにも配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>個別に必要なものに関しては、入居前も含めて説明させて頂いている。私物が最高の福祉用具である観点を説明させて頂き、好きなものを持ちこんでもらっている。</p>	<p>エアコン、ベッド、タンス、カーテンは事業所で備え付けであり、その他本人の生活上必要な物品は自由に持ち込まれている。自宅で使い慣れたタンスや仏壇など様々であり、アルバムを持ってこられる方もいる。希望に応じ、職員が入居者の自宅に持ち物を取りに行くこともあり、居心地よく過ごせる様に環境設定をしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>すぐに職員が手伝うのではなく、一緒に行くことを視点に取り組んでいる。またほうき等、分かりやすく近くに置くことで、すすんで入居者の方が、掃除をされている。</p>		

V アウトカム項目(1階ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念を念頭におきながら、すぐに手を貸すのではなく、その方に応じた対応をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	日常的に買い物や散歩へ行き、地域の方に顔を覚えてもらえるよう取り組んでいる。近所の方から、声をかけられることもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を活用し、説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月間の中にあつたことを、実践報告し、それについて意見を聞かせて頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括の職員からもアドバイスを聞きながら、またアドバイザーの集まりや、情報交換会を活用している。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠は行わず、その方が何を求めているか、だれと相性が良いのか、関係性を重視しながら取り組ませて頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	内部研修を年に1回以上行い、知識の向上や、チームとしての共有を図っている。スタッフの性格や思いだけではなく、具体的に今どこが一番ストレスがかかっているのか、それを改善するためにはどうすれば良いか、チームで考え実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人の方と情報を共有しながら、取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約については、入居時に説明をさせて頂いている。入居後も日々の様子を中心に、連絡しながら、その都度話している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時に話をしている。管理者不在時でも、ケアプラン担当者を中心に日々の様子を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	フロア会議を定期的に行い、意見の収集や統一を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	2か月に一回の本社会議で、事業所の運営について報告を行っている。また毎月報告書を挙げ、職員のストレス把握に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修費の支給はあるが、全額ではなく職員に負担が出ている。会社としては、介護技術コンテスト等で、スキルアップや確認に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着型サービスの情報交換会等に出席している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	介護する側される側ではなく、まずはコミュニケーションを通じて、人間関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>特に入居間もない時は、面会の機会を増やして頂くようお願いしている。その都度日々様子を伝えている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ケアプラン担当者を中心に、家族の想いも含め対応させて頂いている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>関係性を重視し、良い意味で公平な関係を築けるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居して終わりではなく、常に情報を共有しながら、家族様の協力を得ながら取り組ませて頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>生活歴を背景に、墓参りや友人関係が途切れないよう援助をさせて頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入りコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人退去後も、家族様が遊びにきてくださったりしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族様からも情報を頂きながら、本人に負担のないよう暮らしを継続している。また職員間でもカンファレンスを開き、ケアの徹底を図っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までのケース記録を含め、本人の意向家族様の情報を基に、サービスの提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その都度気になることがあれば、ケースカンファレンスを行っている。また朝礼を通じて、その日の入居者の様子を申し送っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	半年に一回のケアプラン更新と、3か月に一回のモニタリングを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に情報を共有できるように、ノートを使用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	看取りの際に、家族様の想いは移り変わっていく。その都度話を聞き、サービスの変更を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	家族様の陶芸教室への見学等、プランへ入れさせて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	毎週木曜日に往診があり、各階を隔週で観て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	特変等見られる場合は、その都度訪問看護へ連絡し、迅速な対応をしている。また毎週金曜日に入居者のバイタル測定等、健康管理に協力してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はその都度面会も含めて、情報収集を行っている。また病院によっては、定期的に情報のファックスを頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居説明時に、重度化した場合や看取りについての話をしている。また入居者が重度化してきた時には、事前に家族に状況を伝え、その都度経過の報告や、看取り期の説明をしている。また訪問看護、主治医についても同様に説明をしてもらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	季節に応じたインフルエンザやノロウイルス等、その時々で対応の練習を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防指導を定期的実施してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	大声で入居者の名前を呼ばない、プライバシーに関わることを言わない等、職員間で徹底できるよう、その都度伝えている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	基本的には選択肢がある声掛けをするよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	同じように起床ではなく、朝のスタートから個別に対応している。またその日の気候や季節に応じて散歩等外出を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時のモーニングケアを徹底し、介護度が高い方でも、身だしなみを徹底するようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜を切ってもらったり、食器を拭いてもらったり、出来ることはやってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事は個別に記載している。水分量に関しては、必要な方のみ記載するようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>訪問歯科とも協力しながら、特に汚れがひどい方に関しては、毎食の口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>要介護度が高い方でもトイレで排泄ができるよう援助を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>朝食後にトイレに座ってもらうよう取り組んでいる。また個別に下剤の調整も行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>時間帯、曜日設定、回数は決めておらず、入浴が好きな方は回数が多い等、個別に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	無理に横になってもらうようなこ とはせず、その時々で対応して いる。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	薬のリスクを共有し、すぐに薬 に頼るのではなく介護的側面 から、アプローチを行っている。 入居者の方に応じた薬の調整 を、主治医と相談しながら行 っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。</p>	買い物や散歩を日課にされて いる方もおられ、また定期的 に墓参りに行かれている方も おられる。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。</p>	以前に島根の友人に会いに、 家族様協力のもと行かれて いる。		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	一緒に買い物に行き、個別に 応じた嗜好品や必要なものを 、買っている。		

自己評価	外部評価	項目(2階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>その都度要望があれば、電話を家族様にかけている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>光がまぶしい時はカーテンを閉める、机に花を飾るなどして、少しでも居心地の良い空間になるよう努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファをリビングに配置している。また廊下置くにもソファを置き、入居者の方や家族様も使用されている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前、入居後も私物の意味を伝え、なるべく本人の物を置くようにしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>包丁を使って料理を手伝ってもらっているときも、目が届くように職員は見守りを行っている。</p>		

V アウトカム項目(2階ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 みのりグループホーム川内

作成日 令和2年4月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の参加者に家族様に来て頂き、意見を聞いていく。	家族様の参加。	まずはどの家族様に参加してもらうかをピックアップし、順次声をかけていく。その際に事前に、議題を見て頂いておく。	今年度
2	35	運営推進会議を通じて、地域の住民の方々に消防訓練をきっかけに、地域との協力体制をとれるようにしておく。	地域住民の参加。	運営推進会議の際にスケジュールを伝えておく。その際に参加の有無を取っておく。	今年度
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。